

立教大学大学院社会学研究科

博士後期課程提出物説明

関連するRGUIDE https://rguide.rikkyo.ac.jp/2024/g_soc/regist/?id=a03

I 「後期課程研究指導教員・研究題目届」

- 履修要項配付時、および、4月初旬の研究科ガイダンスで配付される「後期課程研究指導教員・研究題目届」（社会学研究科ホームページにて雛形電子ファイル（MSワード形式）をダウンロードし利用可能）に、研究指導教員名・副研究指導教員名と研究題目を記入し、指導教員の承認を得た後、4月の提出期間内に提出すること。提出に関してはR Guide『社会学研究科後期課程「研究指導」履修希望申請』の指示に従うこと。
- 博士課程後期課程に在学する全学生は、後期課程研究指導教員・研究題目届をもって届け出た教員の研究指導が自動登録される。従って科目コード登録は不要である。
- 研究指導教員については、社会学研究科委員会の審議を経て確定される。
- 研究休暇・海外研究中の教員は、研究指導を担当することができない。

II 「博士論文研究構想計画書」

- 研究科後期課程学生は、博士論文の主題、現在までの研究状況（修士論文までの研究実績との関連性、研究の具体的進展状況等を含む）、自分の研究の国内外における位置づけ、今後の見通し、について、3,000字～5,000字程度の分量に、「博士論文研究構想計画書」としてまとめ、1年次の7月に提出する。
- 社会学研究科ホームページにて雛形電子ファイル（MSワード形式）をダウンロードし利用可能であり、様式は、当該電子ファイルに従う。
- 日本語または英語で記述すること。
- 1ページ目は表紙とし、必要事項を記入する。
- 2ページ目以降を本文とし、日本語の場合3,000～5,000字、英語の場合はダブルスペースで1,000～2,000語でまとめること。
- 本文は、次の4つの項目から構成すること。
 - 博士論文の主題
 - 現在までの研究状況（修士論文までの研究実績との関連性、研究の具体的進展状況等を含む）
 - 自分の研究の国内外における位置づけ
 - 今後の見通し
- 本文の後に、参考文献表を付記すること。
- 執筆に際しては、実際にどのような論文を書こうとしているのか、いかに研究を遂行するのか、（国内外の研究動向を踏まえ）その研究によりいかなる点が明らかにされるのかが具体的にわかるよう、明晰に記述する。
- 上記要領で作成した「博士論文研究構想計画書」を3部印刷し、R Guideの「博士論文提出関連スケジュール」に記載の7月の提出期間内に学部事務2課（社会学研究科担当）に提出すること。提出方法についてはR Guideの「博士論文提出関連スケジュール」を確認すること。

Ⅲ 博士論文準備基礎論文

- 予備審査論文作成能力を涵養するために、博士論文題目に関する「準備基礎論文」を作成し、2年次9月に提出する。
- 研究計画および論文作成計画に沿い、博士論文へと展開できるだけの実質を備えた独立の研究論文であることが求められる。一部ないし全体が、学術誌への投稿に堪えうる水準にあることが望ましく、実際に投稿することも奨励する。
- 博士論文準備基礎論文提出要領
 - 研究科後期課程学生は、博士論文予備論文作成能力を涵養し、確認するために、博士論文題目に関する基礎論文を次の要領によって作成する。
 - なお、「博士論文準備基礎論文提出届」「博士論文準備基礎論文内容の要旨」「博士論文準備基礎論文（表紙）」については、それぞれ、社会学研究科ホームページにて雛形電子ファイル（MSワード形式）をダウンロードし利用可能であり、様式は当該電子ファイルに従う。
 - I. 提出書類
 - ◇ 1. 博士論文準備基礎論文提出届
 - ◇ 2. 博士論文準備基礎論文内容の要旨
 - ◇ 3. 博士論文準備基礎論文
 - ◇ 4. 博士論文準備基礎論文（PDF版）を記録した電子媒体（USBやDVD、CDなど任意で1部）
 - II. 作成要領
 - ◇ 1. 博士論文準備基礎論文提出届
 - 研究科ホームページにある雛形電子ファイル（MSワード形式）の様式にもとづき必要事項を記入し、印刷する。
 - ◇ 2. 博士論文準備基礎論文内容の要旨
 - 日本語または英語で記述すること。
 - 社会学研究科ホームページにて雛形電子ファイル（MSワード形式）をダウンロードし利用可能であり、様式は当該電子ファイルに従う。
 - 要旨本文は、日本語の場合1,000～3,000字、英語の場合はダブルスペースで500～1,000語でまとめること。
 - ◇ 3. 博士論文準備基礎論文
 - 日本語または英語で記述すること。
 - 1ページ目は表紙とし、以下に例示された様式に沿って必要事項を記入し、印刷する。
 - 2ページ目以降を本文とし、原則として、日本語によるものはA4判（40字×30行）、15ページ以上、英語によるものは、A4判（1インチ10文字、60字×30行、ダブルスペース）、20ページ以上とする。（図表を含む。）
 - 本文の後に、参考文献表を付記すること。
 - ◇ 4. 博士論文準備基礎論文（PDF版）
 - 博士論文準備基礎論文の電子ファイルのPDFデータ版。容量は、1ファイル当たり100MB以下とし、原則として、表紙・目次・図表なども結合した1つのデータファイルで提出すること（ただしファイル容量が100MB以上になる場合は、複数ファイルに分割すること）。
 - PDFファイル全体において、レイアウトの崩れや図表・文字の欠落といった不具合がないかを提出前に必ず確認すること。
 - PDFの推奨形式は、PDF/A（ISO-19005）である。
 - 国立国会図書館によると博士論文の電子データ形式は、PDF/A（ISO-19005）が推奨されている。PDF/A（ISO-19005）とは、長期保存を目的とし

たファイル形式で、文字フォントの埋め込み、暗号化の禁止、外部ファイルへの依存性の排除など、長期的なコンテンツへのアクセスを担保した規格のこと。PDF/A (ISO-19005) 形式は、Microsoft Office Word や Adobe Acrobat から作成することができる。

- Rikkyo SPIRIT「文書を PDF/A 形式で保存する」
URL <https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/faq/SitePages/00110.aspx>

- ☆ 上記要領で作成した「博士論文準備基礎論文提出届」「博士論文準備基礎論文内容の要旨」ならびに「博士論文準備基礎論文」をそれぞれ3部印刷し、R Guideの「博士論文提出関連スケジュール」に記載の9月の提出期間内に、学部事務2課（社会学研究科担当）に提出すること。提出方法についてはR Guideの「博士論文提出関連スケジュール」を確認すること。

<博士論文準備基礎論文の表紙様式>

| |
|---------------|
| 20 年 月 日提出 |
| 博士論文準備基礎論文 |
| 博士論文準備基礎論文題目 |
| 指導教員 ○○○○ 教授 |
| 立教大学大学院社会学研究科 |
| 学生番号 △△△△△△△ |
| 氏名 ○○○○ |

IV 中間報告会、中間報告会実施報告書

- III「博士論文準備基礎論文」の内容をもとに、2年次10月に実施される「中間報告会」で報告する。
- 「中間報告会」の実施に際しては、各報告者の指導教員、副指導教員が、それぞれ出席することを原則とする。
- 報告者は、実施会場での報告を原則とする。
- 中間報告会終了後、各報告者は、「中間報告会実施報告書」（社会学研究科ホームページにて雛形電子ファイル（MSワード形式）をダウンロードし利用可能）を作成し、配布資料を添付したものを3部、R Guideの「博士論文提出関連スケジュール」に記載の11月の提出期間内に、学部事務2課（社会学研究科担当）に提出すること。提出方法についてはR Guideの「博士論文提出関連スケジュール」を確認すること。

V 研究業績報告書

- 博士課程後期課程に在学する学生は、博士論文の作成に向けて各自の研究計画に従って、各年度の研究指導教員および副研究指導教員から週2時間の研究指導を受け、必要な専門知識と能力を身につけなければならない。
- 博士課程後期課程に在学する学生は、各年度の研究業績を指導教員に報告しなければならない。
- 研究指導の成績は、その年度の業績の概要、刊行業績（論文、単行本ほか）、発表業績（学会発表ほか）などを記した「研究業績報告書」（社会学研究科ホームページにて雛形電子ファイル（MSワード形式）をダウンロードし利用可能）によって評価する。同報告書に論文技刷など参考資料を添付したものを2部を、R Guideの「博士論文提出関連スケジュール」に記載の1月の提出期間内に、学部事務2課（社会学研究科担当）に提出すること。提出方法についてはR Guideの「博士論文提出関連スケジュール」を確認すること。

VI 博士論文予備論文

- 課程博士論文が、本審査で審査できる水準であるか否かを判断するために、博士論文草稿ができた段階で、「博士論文予備論文」として提出し、審査を受ける。
- 提出する時点において、修了必要単位の修得（見込可）※1（2020年度以降入学者から適用）、並びに、それまでに必要とされる上述の計画書、論文、報告会、報告書の提出・実施はすべて行われている必要がある。
- 審査の結果、承認されれば、本大学院の諸規則に従って「博士論文」を提出するが認定される。
- 「博士論文予備論文提出要領」
 - 本研究科後期課程学生は、博士論文の審査を願い出る前に、必ず、この要領に従って書類を作成し、予備審査を受けなければならない。書類提出に当たっては、あらかじめ主指導教員に提出書類の点検を受け、主指導教員を経て、研究科委員会に提出する。

※後期課程主任への提出書類には、以下5. 予備論文、6. 予備論文（PDF版）を記録した電子媒体（USBやDVD、CDなど任意で1部）は含まれていないが、予備論文審査申請書に正副指導教員が承認印を押す際に、提示しなければならない。

I. 提出書類

1. 予備論文審査申請書 (1通)
 2. 予備論文要旨 (3通)
 3. 履歴書 (1通)
 4. 研究業績一覧 (1通)
 5. 予備論文 (1編、4通) ※
 6. 予備論文 (PDF版) を記録した電子媒体 (USBやDVD、CDなど任意で1部) ※
- ※予備論文、予備論文 (PDF版) を記録した電子媒体 (USBやDVD、CDなど任意で1部) は申請が研究科委員会で承認された後に審査委員会に提出すること。

II. 作成要領

1. 予備論文審査申請書・1通 (所定の様式)

2. 予備論文要旨・3通

- ◇ 社会学研究科ホームページにて雛形電子ファイル (MSワード形式) をダウンロードし利用可能であり、様式は当該電子ファイルに従う。
- ◇ 3通作成する。
- ◇ 日本語または英語で記述すること。
- ◇ 日本語の場合1,000~3,000字、英語の場合はダブルスペースで500~1,000語でまとめること。

3. 予備論文

- ◇ 共著でないこと。
- ◇ 日本語または英語で記述すること。
- ◇ 簡易製本すること。
- ◇ 原則として、日本語によるものはA4判 (40字×30行)、80ページ以上、英語によるものはA4判 (1インチ10文字、40字×30行)、130ページ以上とする。
(図表、注、文献表を含む。)
- ◇ 論文は、印刷とする。
- ◇ 冊数は、1編、4通とする。

4. 予備論文 (PDF版)

- 予備論文の電子ファイルのPDFデータ版。容量は、1ファイル当たり100MB以下とし、原則として、表紙・目次・図表なども結合した1つのデータファイルで提出すること (ただしファイル容量が100MB以上になる場合は、複数ファイルに分割すること)。
- PDFファイル全体において、レイアウトの崩れや図表・文字の欠落といった不具合がないかを提出前に必ず確認すること。
- PDFの推奨形式は、PDF/A (ISO-19005) である。
 - 国立国会図書館によると博士論文の電子データ形式は、PDF/A (ISO-19005) が推奨されている。PDF/A (ISO-19005) とは、長期保存を目的としたファイル形式で、文字フォントの埋め込み、暗号化の禁止、外部ファイルへの依存性の排除など、長期的なコンテンツへのアクセスを担保した規格のこと。PDF/A (ISO-19005) 形式は、Microsoft Office Word や Adobe Acrobat から作成することができる。
 - Rikkyo SPIRIT「文書を PDF/A 形式で保存する」
URL <https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/faq/SitePages/00110.aspx>